学校番号	1206

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新選世界史Ｂ　（東京書籍）						
副教材等	授業担当者作成プリントなど						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、世界の歴史について地理的・時代的な経緯や背景を知るだけでなく、同時代に生きた人々の立場に立って主体的に考え、理解する活動を行います。積極的に授業に参加しましょう。
・グループで課題に取り組む活動も行います。積極的に自分の意見を述べ、周りの同級生と協力し合って意見をまとめましょう。
・課題にあきらめずに取り組み、世界の歴史について自分なりの意見を培いましょう。
・授業中のプリントやレポートなどの提出物をしっかり出しましょう。

２　学習の到達目標

・近世・近代・現代までの世界の通史を学ぶ。
・世界の一体化を進めた交易や、諸地域の革命や進歩を経て、二つの世界大戦に至るまでを学び、現代社会との関連を考察する。
・文化の多様性や複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人として必要な自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	○世界の形成の歴史的な過程と生活･文化の地理的特色に対する関心と問題意識を高め､意欲的に追求している。 ○国際社会に主体的に生き、国家･社会を形成する国際人としての責任を果たそうとしている。	○人類の課題を世界史的視野に立って多角的に考察できている。 ○世界の形成の歴史的な過程と生活・文化の地理的特色を世界史的視野に立って考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。 ○これらの過程や結果をレポート・発表などにより適切に表現できる。	○歴史的・地理的できごとに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	○世界の形成について、歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解している。また、それらについて知識を身につけている。
評価方法	授業観察 授業プリント レポート	授業観察 授業プリント レポート 定期テスト	授業観察 授業プリント レポート 定期テスト	授業観察 授業プリント レポート 確認テスト 定期テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第八章	＜大航海の時代＞ ・大航海時代以前のユーラシアの三つの東西交渉のルートの動きを理解する。 ・大航海時代にともなうヨーロッパ経済への影響と，大西洋世界での交易・植民地化の動きを理解する。 ＜ルネサンス＞ ・ルネサンスのヨーロッパ諸国への広がりを理解する。 ＜宗教改革＞ ・宗教改革・宗教戦争の推移を理解し、その背景について考察する。 ＜主権国家の成立＞ ・絶対王政と主権国家について学ぶ。 ＜東方の大国＞ ・17～18世紀のプロイセン、オーストリア、ロシア、ポーランドについて学び、それぞれの発展や衰退の要因を理解する。 ＜ヨーロッパ人の進出とアメリカ・アフリカ＞ ・ヨーロッパの植民活動について学び、その結果、大西洋を囲む世界の経済が一体化していったことを理解する。	○	○	○	○	a:世界の一体化への関心を高め、ヨーロッパ人の植民活動について意欲的に調べ、それによりもたらされた世界経済の一体化がアジアやアフリカに与えた深刻な打撃を追究しようとしている。 b:ルネサンスが始まった背景をふまえて、作品の特徴について歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。 c:様々な絵画資料を分析し，プロテスタントの主張や、宗教改革の展開に関する情報を読み取り、宗教改革と国家主権の尊重との関係を示す根拠として活用している。 d:絶対王政と主権国家について理解し、その知識を身に付けている。 ・17～18 世紀のプロイセン、オーストリア、ロシア、ポーランドの発展や衰退について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 提出プリント レポート 発表 発問評価

	第九章	＜産業革命＞ ・イギリス産業革命の背景と展開，産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。 ＜アメリカ合衆国の独立＞ ・北米植民地がイギリスから独立する経緯を理解する。 ＜フランス革命とナポレオン＞ ・フランス革命の推移を学び、革命が目指した理想と、社会の実情を理解する。 ＜ウィーン体制と 1848 年革命＞ ・ウィーン体制の成立と，その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。 ＜国民国家の建設と国際関係の推移＞ ・イタリアとドイツの統一の動きを、自由主義とナショナリズムの発達との関連の中で理解する。 ＜ヨーロッパの文化＞ ・19 世紀の各国の文化について学び、その特質について理解する。	○	○	○	○	a:産業革命の世界史的背景、技術革新や交通革命の進展と波及について、関心を持って学習しようとしている。 b：自由主義が発展したイギリスの労働者がおかれた悲惨な状況について歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。 c：「独立宣言」の抜粋などの資料から近代民主政治の基本原理についてまとめることができている。 d:フランス革命がおこった背景、進展過程に関する基本的な知識を身につけている。また、皇帝ナポレオンに関する基本的な知識を身につけている。 ・19世紀の各国の文化とその特質について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 提出プリント レポート 発表 発問評価
2学期	第十章	＜ヨーロッパ諸国のアジア進出＞ ・新航路開拓後のヨーロッパのアジアへの進出の推移、手法について理解する。 ＜西アジアの変動＞ ・17 世紀以降のオスマン帝国について学び、イスラームの西欧化の状況を理解する。 ＜南アジア・東南アジアの変動＞ ・インドの植民地化とその社会の変貌，東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。 ＜東アジアの変動＞ ・新松野社会や経済の状況を、イギリスの進出との関係をふまえて理解する。	○		○	○	a: ヨーロッパ諸国のアジア進出への関心を高め、新航路開拓後のヨーロッパのアジアへの進出の手法、推移について意欲的に調べ、現代にもつながる問題として、ヨーロッパ諸国がアジアで利益をあげる構造についての考察を深めようとしている c：17 世紀以降のオスマン帝国に関する歴史地図から、オスマン帝国の衰退に関する情報を読み取っている。 d：19 世紀後半以降の東アジア世界において、弱体化する清にかわって、ロシアや日本が勢力を拡大した過程について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 提出プリント レポート 発表 発問評価

	第十一章	＜世界を支配する国々＞ ・アメリカやドイツを中心とする第2次産業革命について学び、大国の力関係の変化を理解する。 ＜アジアの民族主義と国家建設＞ ・東南アジアと南アジア、西アジアにおける民族主義の高まりと、国家建設にむけた運動の展開について学ぶ。 ＜世界の一体化＞ ・世界経済の一体化を学び、それによって人々の移動が増え、文化も一体化していったこと、国際関係が作られるようになったを理解する。			○	○	c：19 世紀末から 20 世紀初めの歴史地図から欧米列強の世界分割を示す情報を読み取り、少数の帝国主義の国々が世界を支配する様子を示す根拠として活用している。 d：辛亥革命の背景と展開について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 提出プリント レポート 発表 発問評価
	第十二章	＜第一次世界大戦＞ ・第一次世界大戦勃発の経緯、大戦の展開を理解する。 ＜ヴェルサイユ体制とワシントン体制＞ ・ヴェルサイユ体制が、ドイツやソ連、東ヨーロッパの民族問題等の問題を抱えていたことを理解する。 ＜アジアの独立運動と革命＞ ・中国・朝鮮・台湾における独立運動について学び、この時期に各地域で運動がおきた背景を考察する。 ＜アメリカ合衆国の繁栄＞ ・1920 年代のアメリカ経済の繁栄について学び、その要因について考察する。 ＜世界恐慌と自由主義への挑戦＞ ・世界恐慌について学び、各国の対応について理解する。 ＜第二次世界大戦＞ ・第二次世界大戦の勃発する経緯を理解する。	○	○	○	○	a:第一次世界大戦への関心を高め，第一次世界大戦の展開や背景、影響について意欲的に調べ、第一次世界大戦を現代の世界の歴史的背景として位置づけて考察しようとしている。また、この時期に世界大戦、総力戦が起きた要因を追究しようとしている。 b:イギリスやフランスが主導したヴェルサイユ体制について、国際協調をめざす一方、ドイツやソ連、東ヨーロッパの民族問題等の問題を抱えていたことをふまえて歴史的に考察し、考察したことを適切に表現している。 c:20 世紀前半のアジアに関する複数の歴史地図から、それぞれの地域の状況を示す情報を読み取り、アジア各地で独立や国家の統一をめざす動きが強まっていたことの根拠として活用している。 d:第二次世界大戦下のアジア、ヨーロッパ諸国の人々がおかれた状況、大戦が世界に与えた被害について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 提出プリント レポート 発表 発問評価

3学期	第十三章	＜冷戦と第三世界の独立＞ ・第二次世界大戦後，米ソを中心とした冷戦体制が成立し，東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。 ＜平和共存と多極化＞ ・米ソ両国が核戦争を回避して平和共存を模索した経緯を学ぶ。 ＜アメリカ経済の動揺と国際秩序の変容＞ ・金とドルの交換停止、石油危機の背景、国際秩序に与えた影響を理解する。 ＜冷戦の終結とその後の世界＞ ・冷戦が終結し、ソ連が崩壊する経緯、東欧の社会主義諸国の崩壊について学ぶ。 ＜21 世紀を生きる私たち＞ ・グローバル化の現状について学び、その結果生じている問題と、日本が果たすべき役割について考察する。	○	○	○	○	a:米ソそれぞれの経済協力と軍事ブロックの形成による冷戦構造について、関心を持って学習しようとしている。 b:アジア・アフリカ新興独立諸国による第三世界の台頭とキューバ危機以降の米・ソの政策を。冷戦の緩和と関連付けて考察し。文章にまとめる。 c:複数の経済に関するデータから、ドル危機と石油危機の前後における変化を示す情報を読み取り、ドル危機と石油危機が世界の経済や国際関係に与えた影響について説明する根拠として活用している。 d:冷戦後の各地域での紛争や、核兵器削減の動きについて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 提出プリント レポート 発表 発問評価
	終章	＜民族や文化のちがいをみとめながら生きる＞ ・民族についての学習をふまえ、現在の世界の民族紛争、日本に住む外国人などについて調べ、共生への課題について考察する。 ＜「青い宝石・地球」を未来にうけつぐ＞ ・持続可能な社会の実現の方法を考察する。	○			○	a: 21 世紀の世界が抱える課題への関心を高め、現在の世界の民族紛争、日本に住む外国人などについて意欲的に調べ、共生にむけた課題の解決策を主体的に模索しようとしている。 d: 水危機のような地球規模の環境問題など、持続可能な社会の実現にむけた課題について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 提出プリント レポート 発表 発問評価

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。